

政治学におけるジェンダーと多様性

世界政治学会(IPSA)による2017年の「ジェンダーおよび多様性モニタリング報告書」は、これまでの報告書(2011年、2013年)と同様、ジェンダーに焦点を当てていますが、今回の報告書ではジェンダー以外の多様性についても検討しています。これらの報告書は、IPSAに加盟している各国政治学会(political science associations - PSA)に対するサーベイ調査に基づいています。



2017年PSAサーベイ調査の結果

IPSAに加盟する55のPSAのうち33から回答を得ました。主な調査結果は以下のとおりです。

- 規模の大きいPSAではメンバーの約1/3が女性でした。
- PSAの会長の39%が女性でした。
- PSAの理事の39%、常務理事の37%が女性でした。
- PSAの約42%が、先住民族の存在を報告していますが、先住民族に関する情報を体系的に収集しているのは2つ(オーストラリアとアメリカ)のPSAのみでした。
- 人種/民族、言語に関する情報を収集しているPSAはごくわずかでした。また、宗教に関して情報収集をしているPSAはありません。

制度メカニズムとグッドプラクティス

2017年の調査では、多様性を促進する何らかの制度メカニズムを設定しているPSAの数は19に増加したことがわかりました。これらには、多様性を促進するための組織や、ジェンダー、人種、民族に関する研究グループが含まれます。ごくわずかながら、先住民族の問題に対処する組織を持つPSAもありました。グッドプラクティスの例としては、会員データ収集の改善、学会のリーダーシップを男女交互に選出すること、学会賞などを設けて多様性に関する研究の認知度を高めることなどがあります。どのような多様性促進のイニシアチブがうまくいったかに関するPSAの間での情報交換は、IPSAモニタリング報告書の重要な部分です。

IPSA データから得られた結果

IPSA 事務局が提供する IPSA に関するデータは、IPSA への女性の参加が様々な側面で過去 20 年間一貫して上昇してきたことを示しています。IPSA 評議会と執行委員会の両方で女性の割合は 40%以上です。同様に、女性は IPSA メンバーの約 40%、IPSA 世界大会の参加者の 40%以上を占めています。ジェンダー問題に関するリサーチコミッティー(RC)は大変活発です。また RC 全体でも女性は重要な役割を果たしており、RC チェアの女性割合は 3 分の 1 以上を占めています。IPSA の設けている賞の女性受賞者もますます増加しており、IPSA の旗艦誌である *International Political Science Review* (IPSR)では過去 20 年間で 5 人の女性編集者がいました。IPSR に掲載された論文著書における女性の割合も 3 年連続で史上初の 40%台に達しました。

結論

2017 年の報告書、および、PSA と IPSA の動向は、IPSA のメンバーとしてだけでなく、評価の高い研究者やリーダーとして政治学における女性の参加が進んでいることを示しています。これらの進歩の程度は国や研究分野によって異なりますが、より良いジェンダー平等と多様性を目指すための対話や制度メカニズムが貢献していると言えます。